

# 調査結果の概要

## 1 貯蓄に関する現状と意識

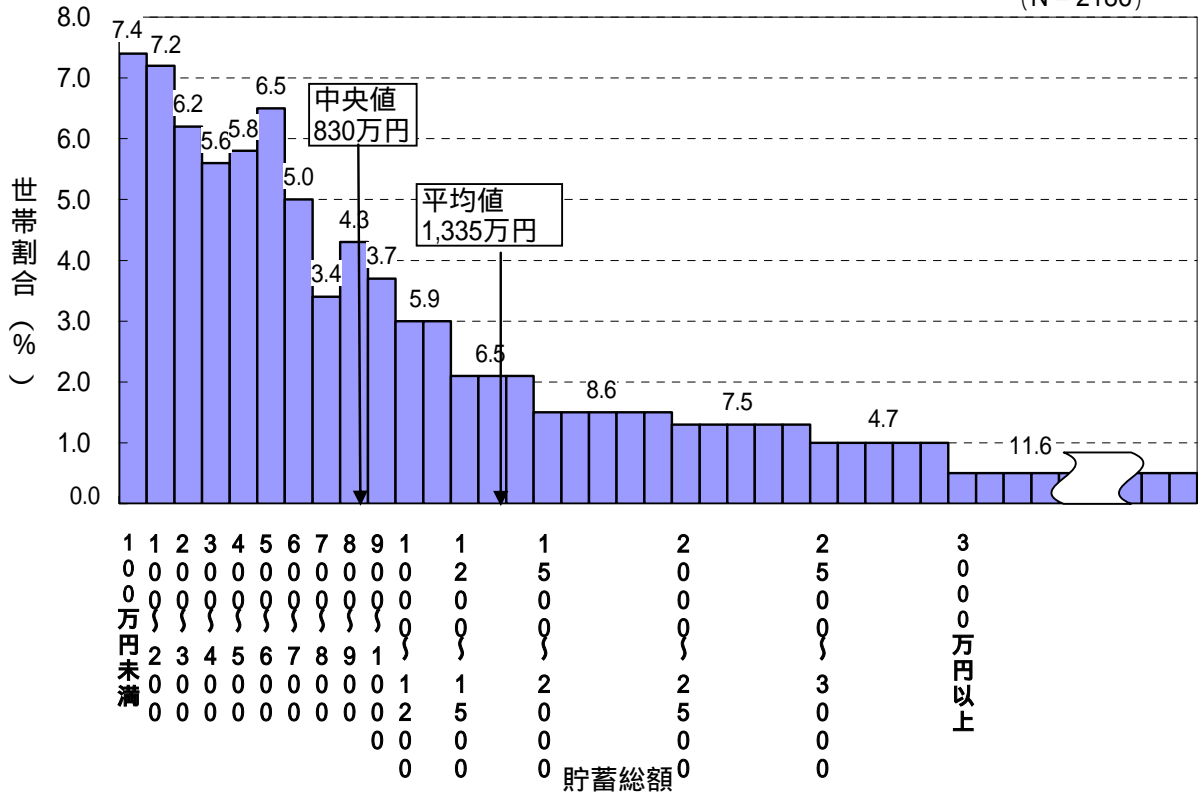
### (1) 貯蓄保有状況

貯蓄現在高 - 全世界帯 (図表1)

調査対象世帯 (全世界帯) のうち約9割(94.8%)が貯蓄を保有しており、貯蓄保有世帯の平均貯蓄総額 (預貯金・金融商品の保有額) は1,335万円 (中央値は830万円) となっている。また、貯蓄総額の分布を見ると「100万円未満」とした世帯の割合が7.4%と最も高かった。

図表1 貯蓄総額の分布 <全世界帯>

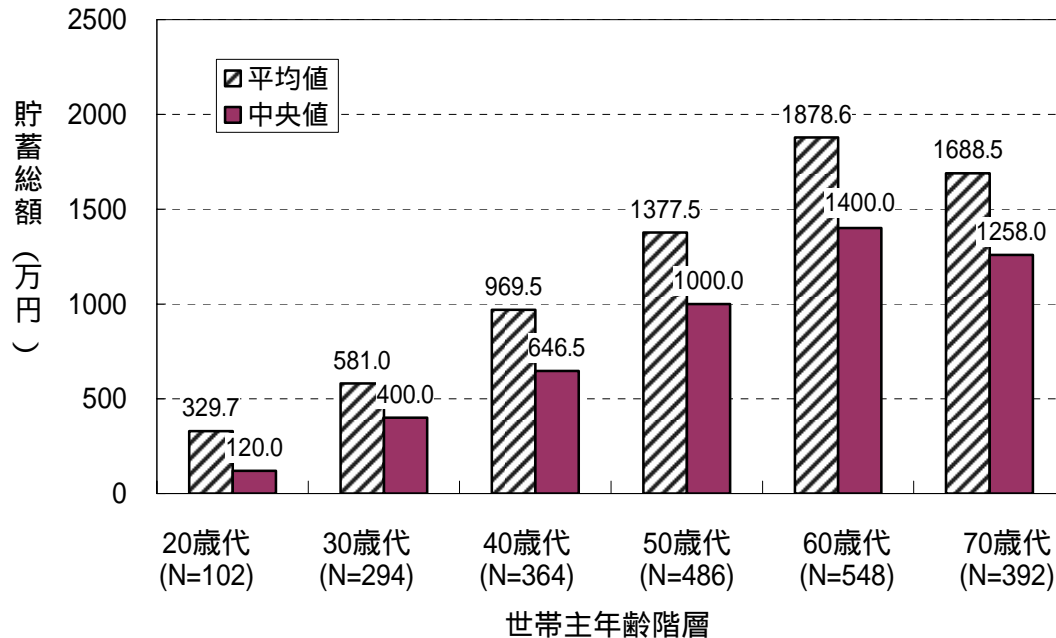
(N = 2186)



### 貯蓄現在高の平均値と中央値 - 全世帯（図表2）

平均貯蓄総額を年齢階級別にみると、それぞれ世帯主の年齢が高くなるほど多くなる傾向が見られ、世帯主が60歳代の世帯においては、1,878万円（中央値は1,400万円）と最も多かった。

図表2 貯蓄現在高の平均値と中央値 < 全世帯 >

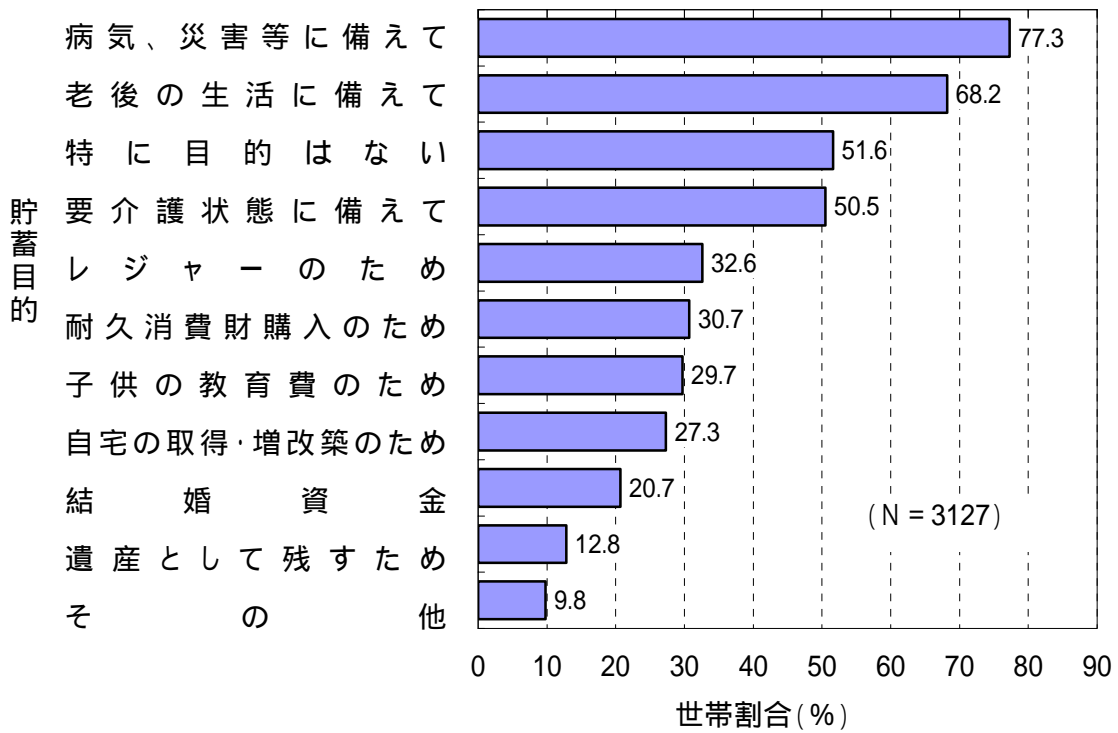


## (2) 貯蓄目的

### 貯蓄目的（図表3） < 全世帯 >

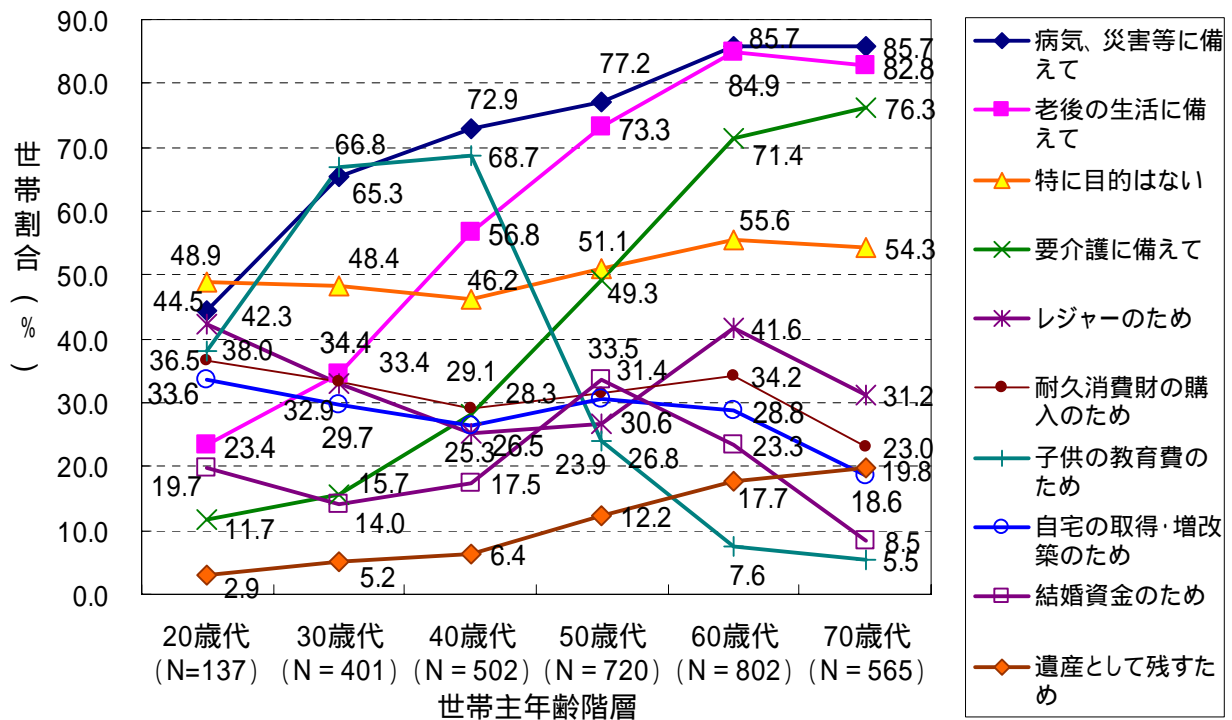
貯蓄の目的について尋ねたところ、「病気、災害、その他不時の出費に備えるため」と回答した世帯の割合が77.3%で最も高く、次いで「老後の生活に備えるため」(68.2%)、「特に目的はないが貯蓄をしていけば安心だから」(51.6%)となっている。

図表3 貯蓄目的（複数回答）＜全世界帯＞



これを世帯主の年齢階級別にみると、40歳代以上では「病気、災害、その他不時の出費に備えるため」の割合が最も高くなっている。（図表4）

図表4 貯蓄目的（世帯主年齢階級別）（複数回答）＜全世界帯＞

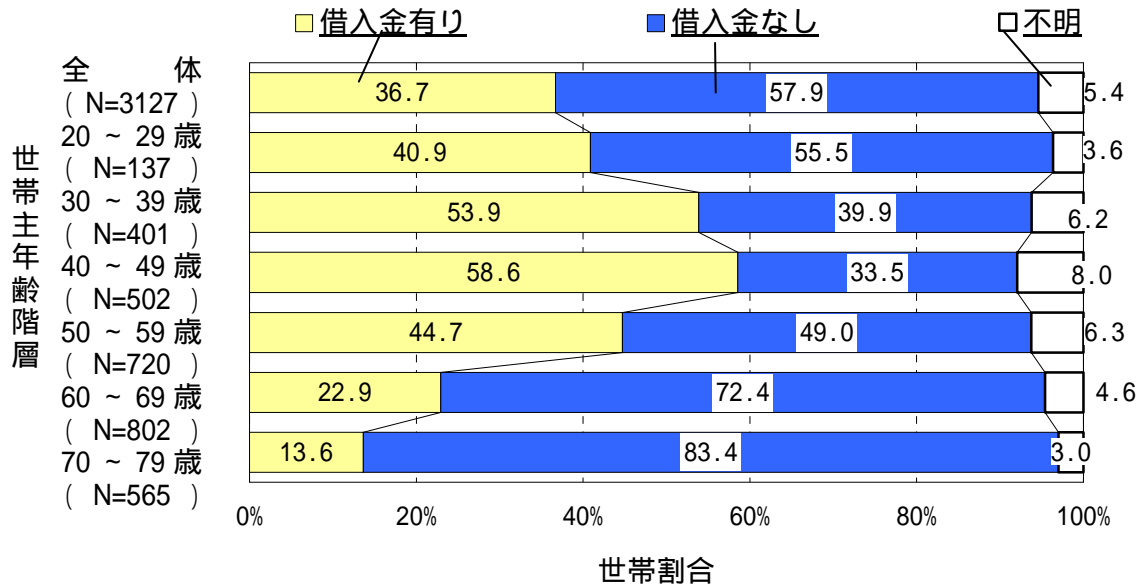


## 2 負債の状況

### (1) 負債の状況 (図表 5)

借入金がある世帯の割合は 36.7%であった。世帯主の年齢階級別に見ると、20 歳代から 50 歳代の世帯の 4 割以上が借入れをしており、60 歳代以降は借入れ割合が大幅に減少している。

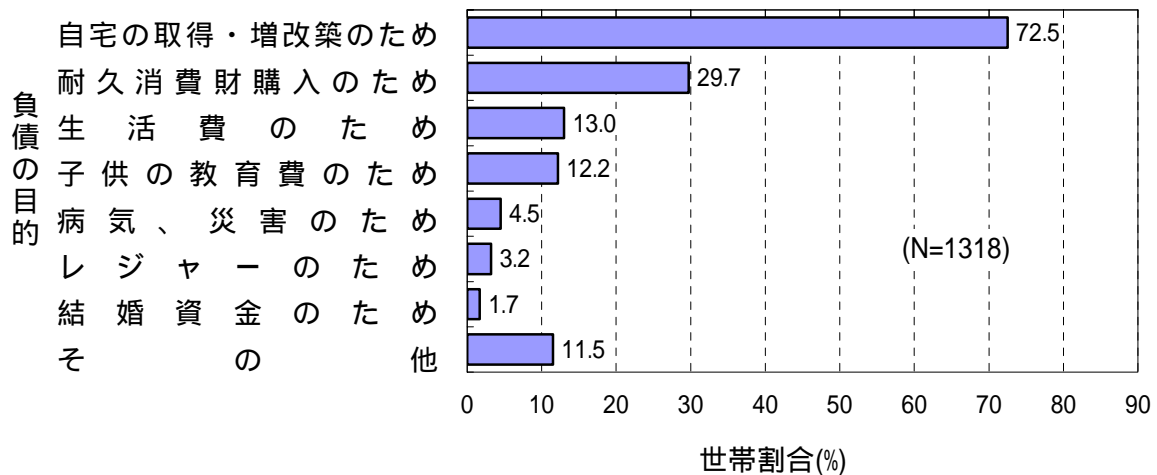
図表 5 借入金保有状況 (世帯主年齢階級別) < 全世界帯 >



### (2) 負債の目的 (図表 6)

借入の目的は「マイホームの取得・増改築のため」の割合が最も高く、借入金がある世帯のうちの約 7 割となっている。

図表 6 目的別借入金保有状況 < 全世界帯 >

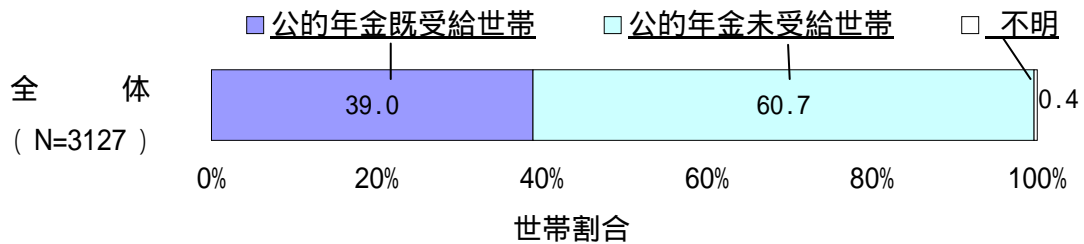


### 3 老後の生活に関する現状と意識

#### (1) 公的年金の受給状況 (図表 7)

世帯主の公的年金受給状況を見ると、「まだ受け取っていない」とした世帯(以下「公的年金未受給世帯」という)の割合が6割を超え、「すでに受け取っている」とした世帯(以下「公的年金既受給世帯」という)の割合が約4割であった。

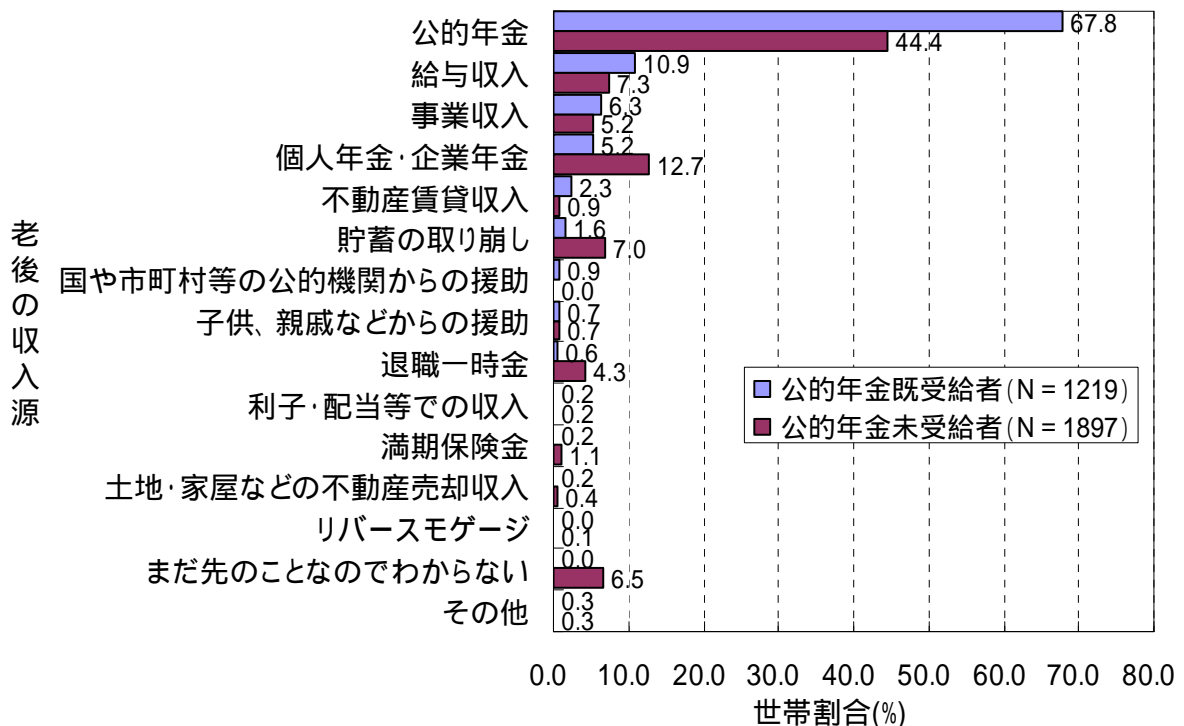
図表 7 公的年金受給状況<全世帯>



#### (2) 公的年金に関する意識と現状 (図表 8, 9)

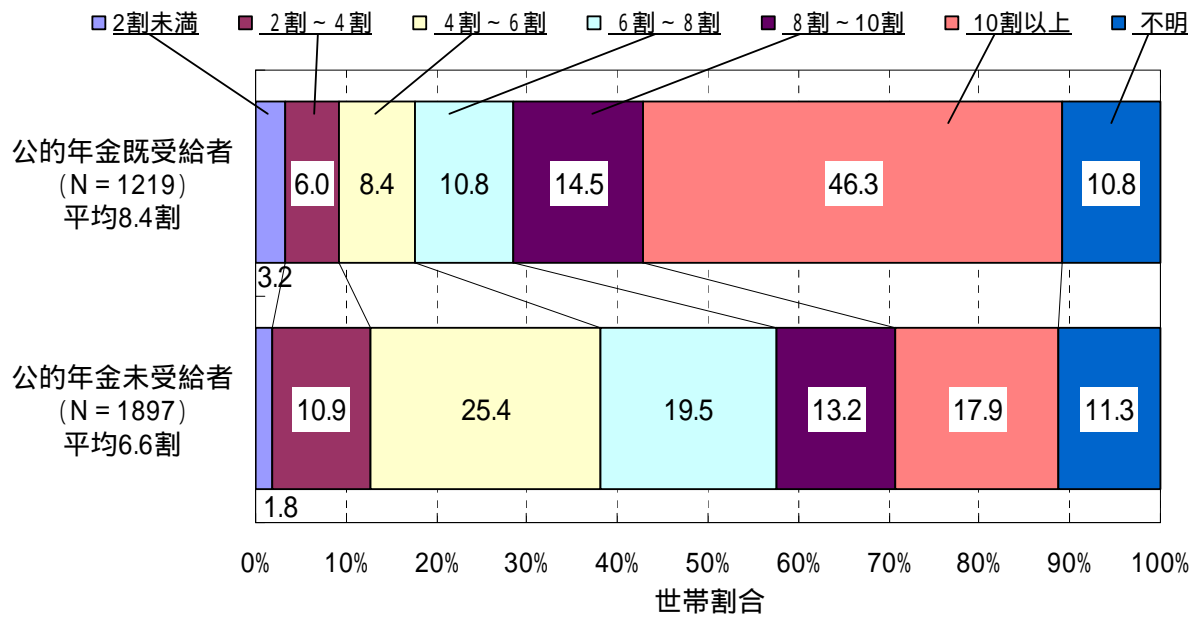
老後の生活費を賄う最も重要な収入源としては、公的年金未受給世帯、公的年金既受給世帯ともに「公的年金」をあげる割合が際立って高かった。また、その割合は、未受給世帯では4割強であるのに対して、既受給世帯では約7割となっている。

図表 8 老後の収入源 (公的年金受給状況別) <全世帯>



また、公的年金で老後の生活費の何割程度を賄えると考えているか（賄っているか）をたずねたところ、未受給世帯の回答の平均は6.6割であったのに対して、既受給世帯の回答の平均は8.4割となった。特に、既受給世帯のおよそ46%が公的年金で生活費を十分に賄っていると回答している。

図表9 公的年金で生活費を賄える割合（公的年金受給状況別）＜全世界帯＞

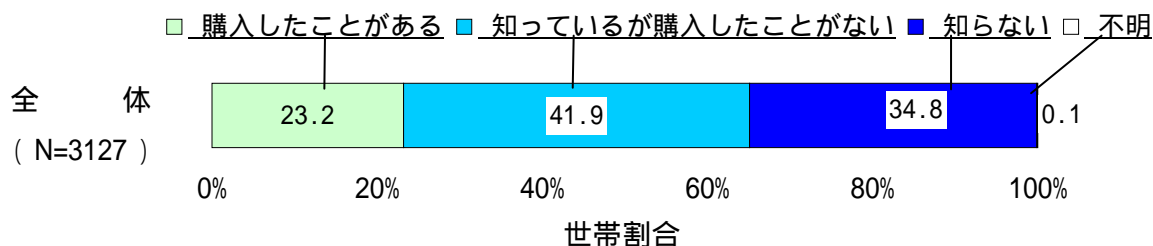


## 4 投資信託に関する現状と意識

### (1) 投資信託の認知状況 (図表 10)

投資信託の認知及び購入の有無をたずねたところ、「知っている」と回答した世帯(「購入したことがある」と「知っているが購入したことがない」を合わせた割合)の割合が6割以上であり、「知らない」と回答した世帯を大きく上回っている。

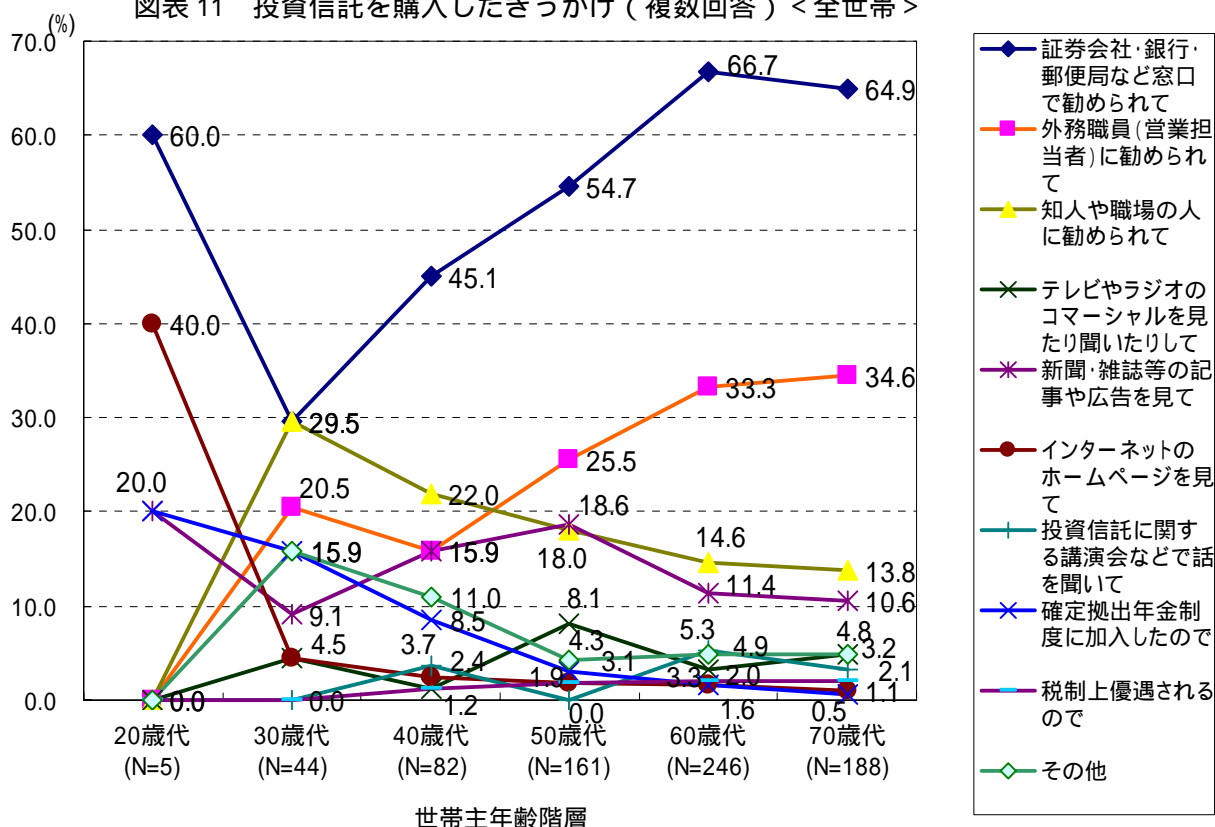
図表 10 投資信託の認知及び購入の有無 < 全世界帯 >



### (2) 投資信託を購入したきっかけ (図表 11)

投資信託を購入したことがあると回答した世帯に購入したきっかけをたずねたところ、「証券会社・銀行・郵便局などの窓口で勧められて」と回答した割合が最も多かった。なお、20歳代はサンプル数が僅少のため、具体的な解釈を行うには注意が必要であろう。

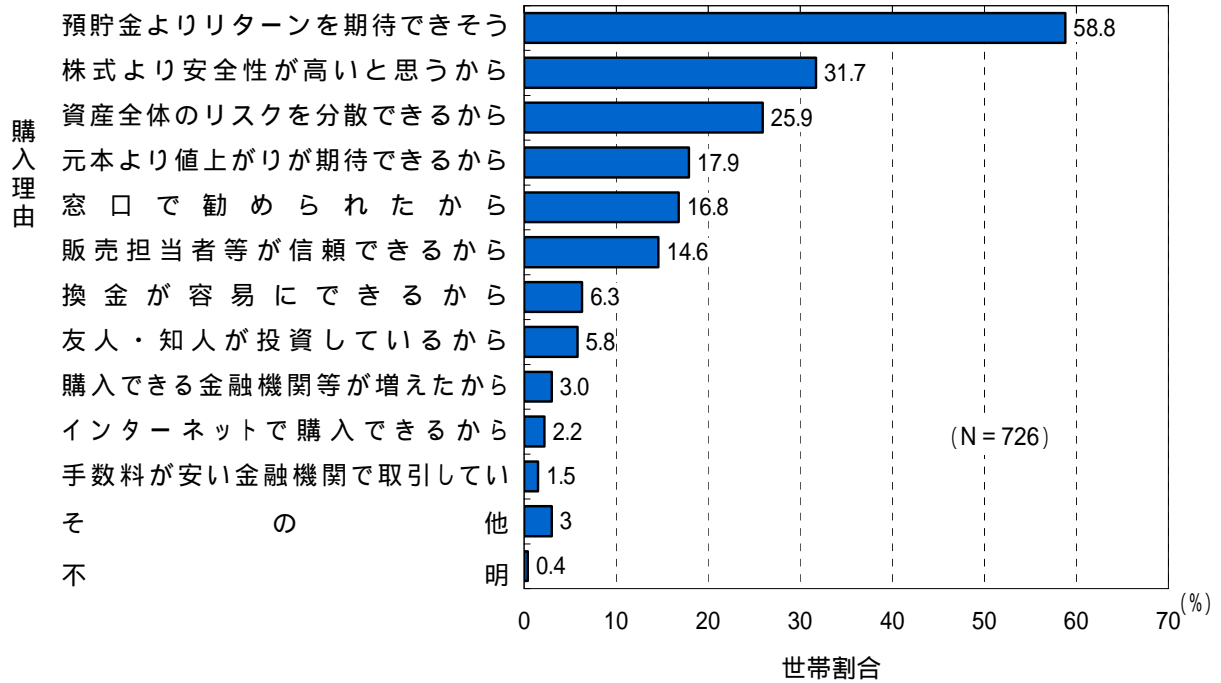
図表 11 投資信託を購入したきっかけ (複数回答) < 全世界帯 >



### (3) 投資信託を購入した理由 (図表 12)

投資信託を購入したことがあると回答した世帯に購入した理由をたずねたところ、「預貯金よりリターンを期待できそうだから」と回答した割合が6割以上であり、最も多かった。

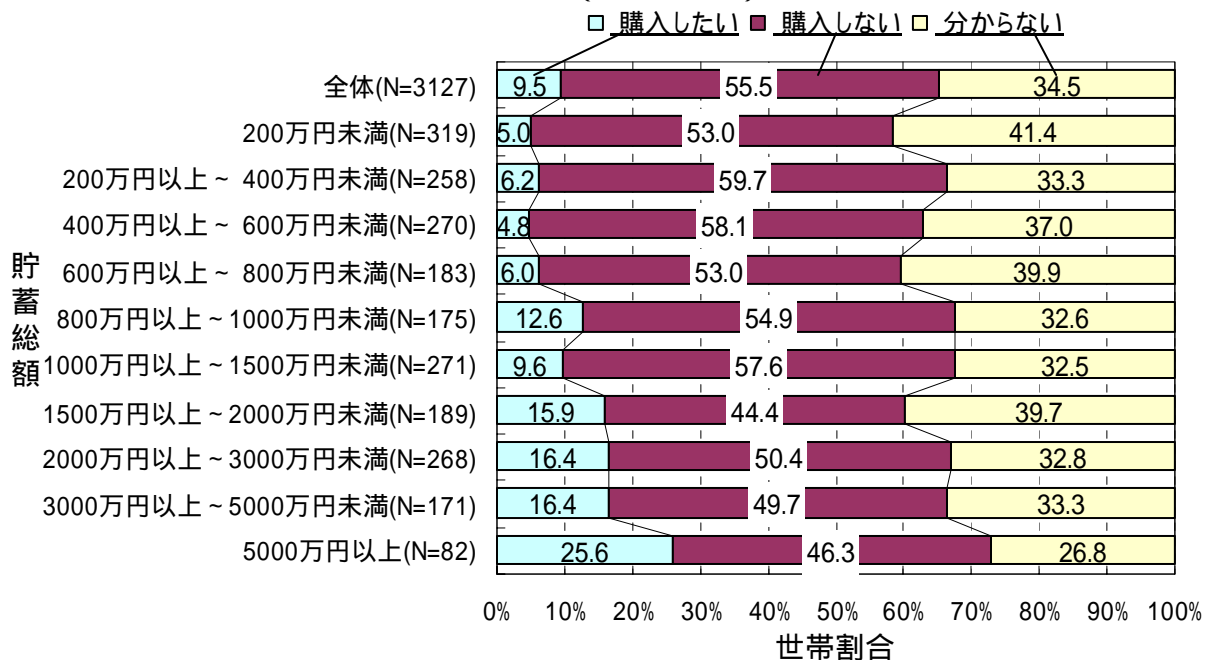
図表 12 投資信託を購入した理由 (複数回答) < 全世帯 >



### (4) 今後の購入意向 (貯蓄総額別) (図表 13)

今後投資信託を購入したいかについて、世帯の貯蓄総額別にみると「購入しない」と回答した世帯が、ほとんどの貯蓄総額別階級で5割以上となっている。一方、貯蓄総額が1,500万円以上の階級では「購入したい」と回答した世帯の割合が1,500万円未満の階級に比べ高くなっている。

図表 13 今後の購入意向 (貯蓄総額別) < 全世帯 >

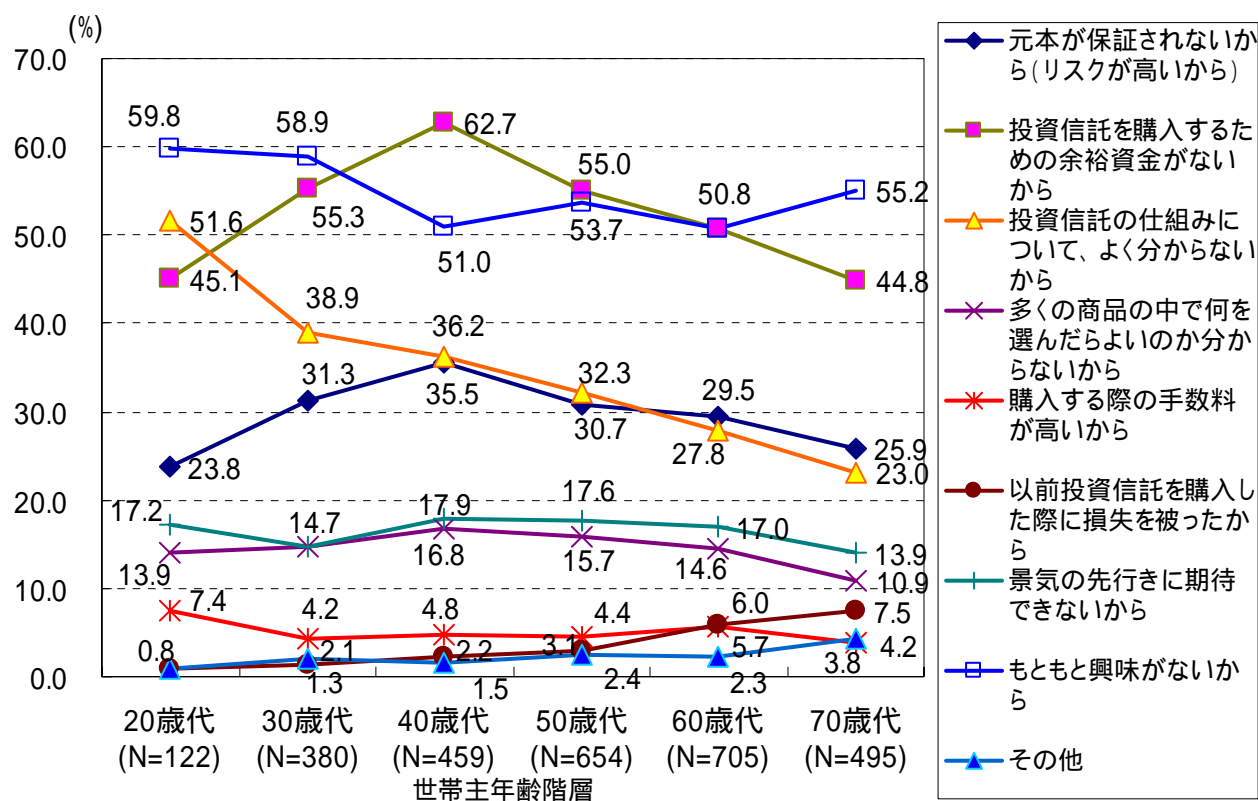




(5) 今後投資信託を購入しない、分からない理由（世帯主年齢別）（図表 14）

今後投資信託を購入しない、分からないと回答した世帯について、世帯主年齢別にみると 20、30、70 歳代では「もともと興味がないから」と回答した世帯が約 6 割で最も高くなっている。一方、40 歳代では「購入するための余裕資金がないから」が約 6 割であり、他の年齢階層に比べ最も高くなっている。

図表 14 今後投資信託を購入しない、分からない理由（複数回答）＜全世界帯＞

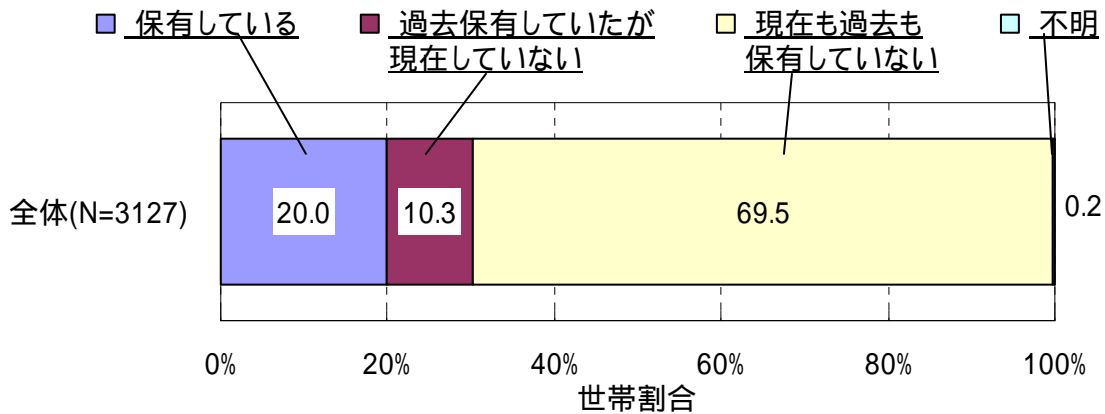


## 5 株式に関する現状と意識

### (1) 株式の保有状況 (図表 15)

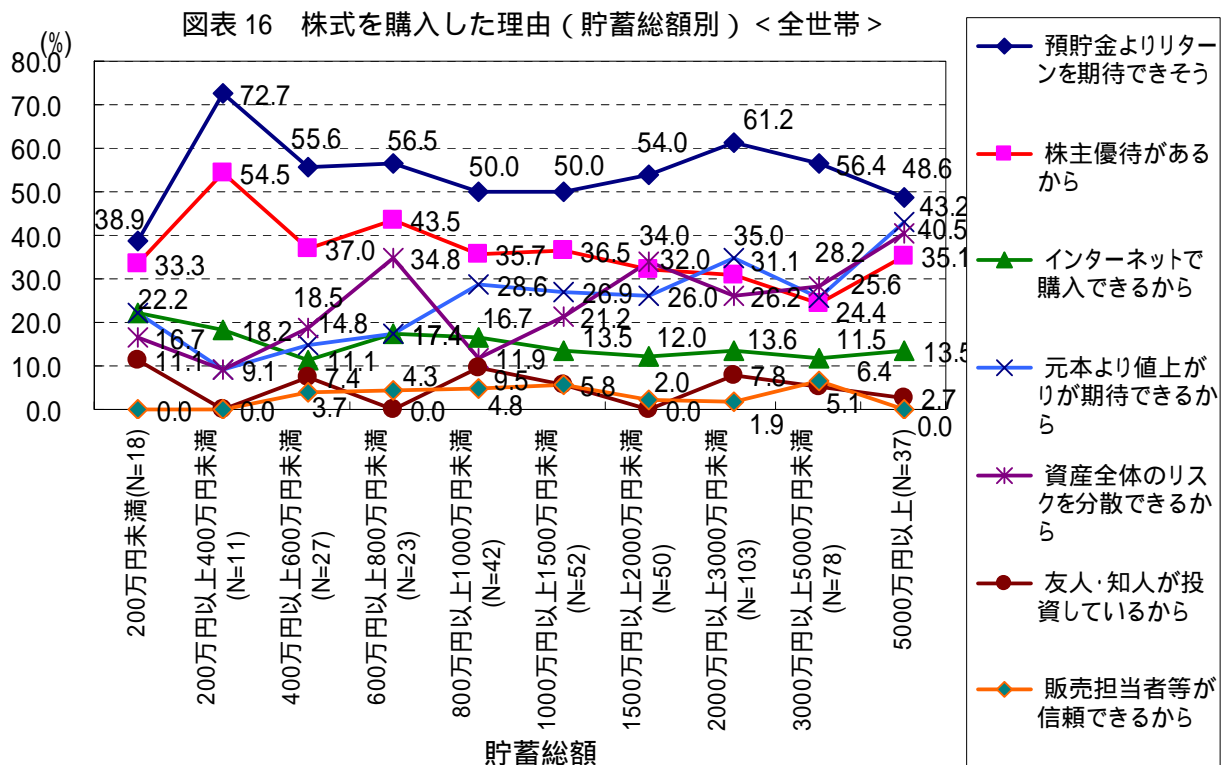
株式の保有の有無をたずねたところ、「保有している」と回答した世帯は2割であり、「現在も過去も保有していない」と回答した世帯は約7割であった。

図表 15 株式の保有状況 < 全世界帯 >



### (2) 株式を購入した理由 (貯蓄総額別) (図表 16)

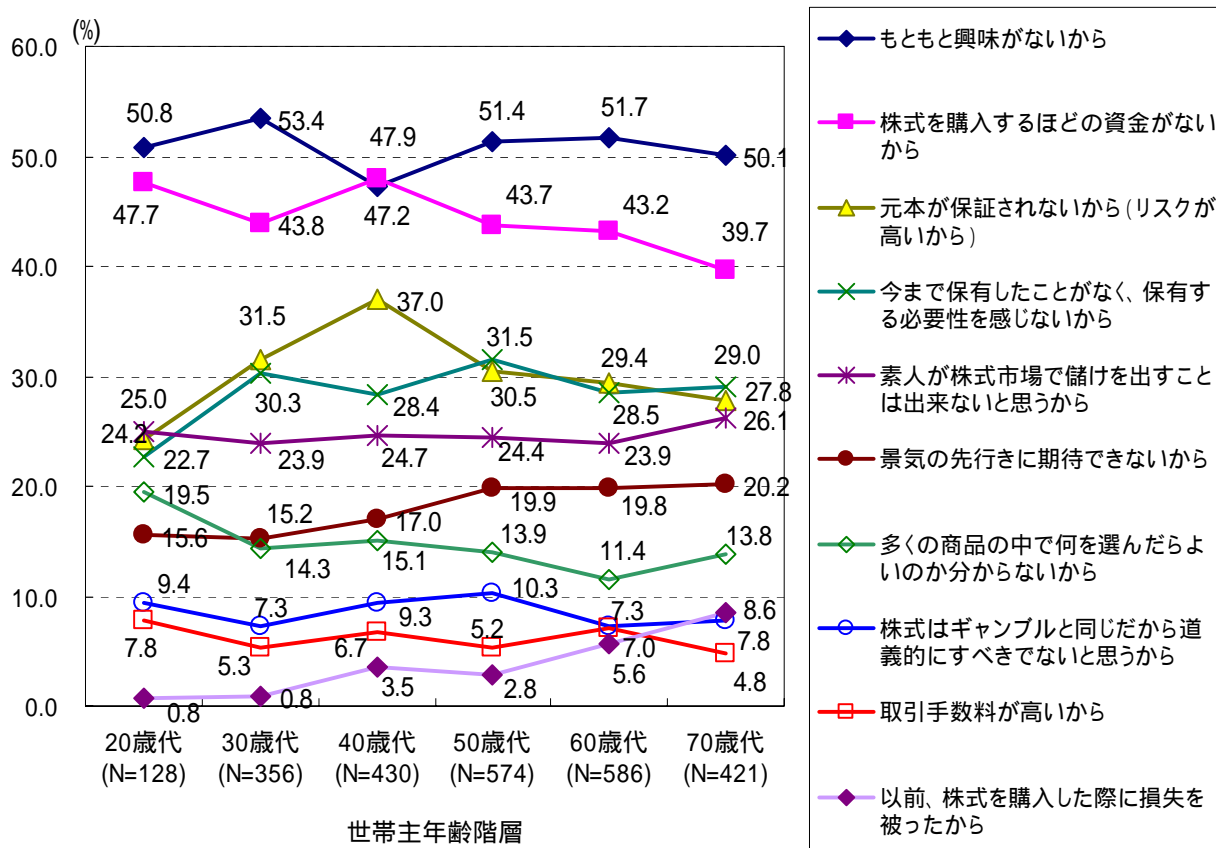
株式を購入した理由を貯蓄総額別にみると、「預貯金よりリターンを期待できそうだから」と回答した世帯が最も多かった。ただし、貯蓄総額によってサンプル数が僅少であることに注意が必要である。



(3) 株式を保有していない理由（世帯主年齢別）（図表 17）

株式を保有していない理由を世帯主年齢別にみると、「もともと興味がないから」と回答した世帯がほとんどの階層で最も高く、その割合は約 5 割であった。また、「元本が保証されないから（リスクが高いから）」と回答した世帯は、40 歳代で最も高く約 4 割であった。

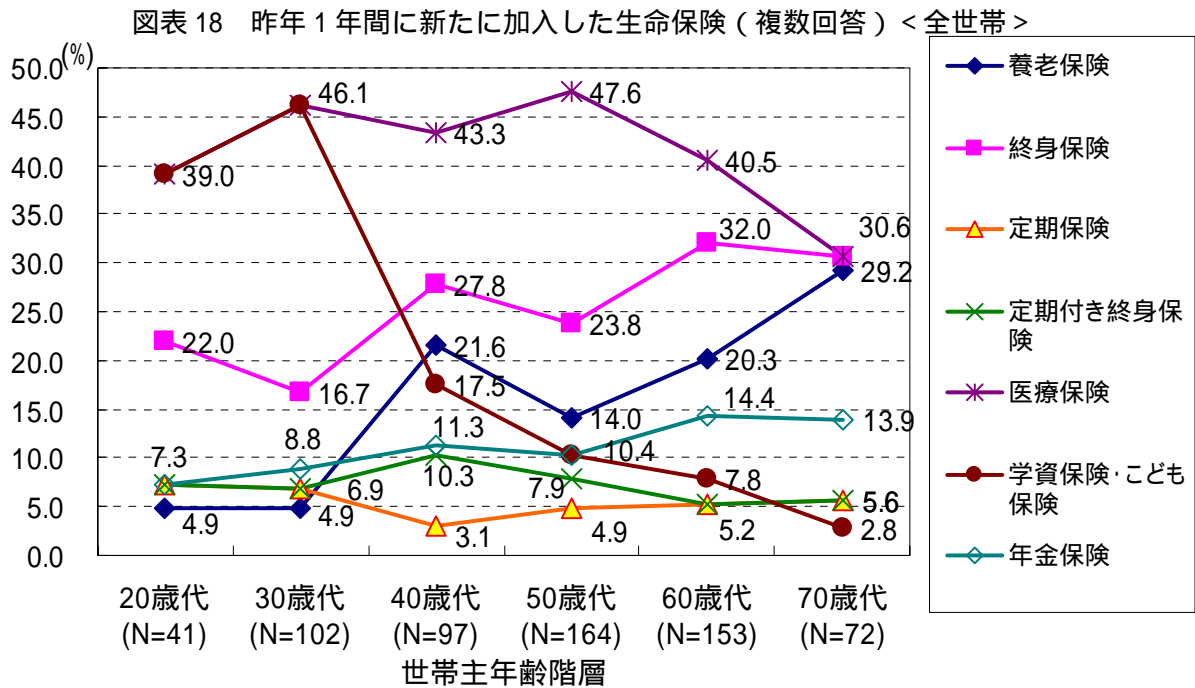
図表 17 株式を保有していない理由（世帯主年齢別）＜全世帯＞



## 6 生命保険・個人年金の保有状況

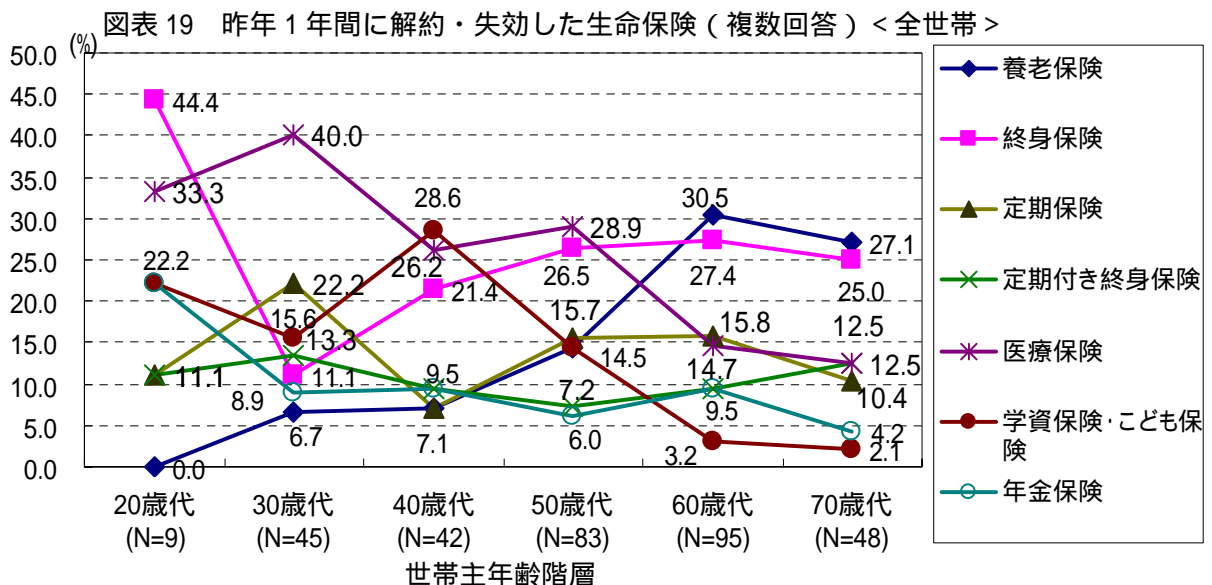
### (1) 昨年1年間に新たに加入した生命保険 (図表 18)

昨年1年間に新たに加入した生命保険についてたずねたところ、どの年齢階層でも「医療保険」と回答した世帯の割合が最も高かった。また、「学資保険・子ども保険」と回答した世帯は20、30歳代で4割以上を占めている。



### (2) 昨年1年間に解約・失効した生命保険 (図表 19)

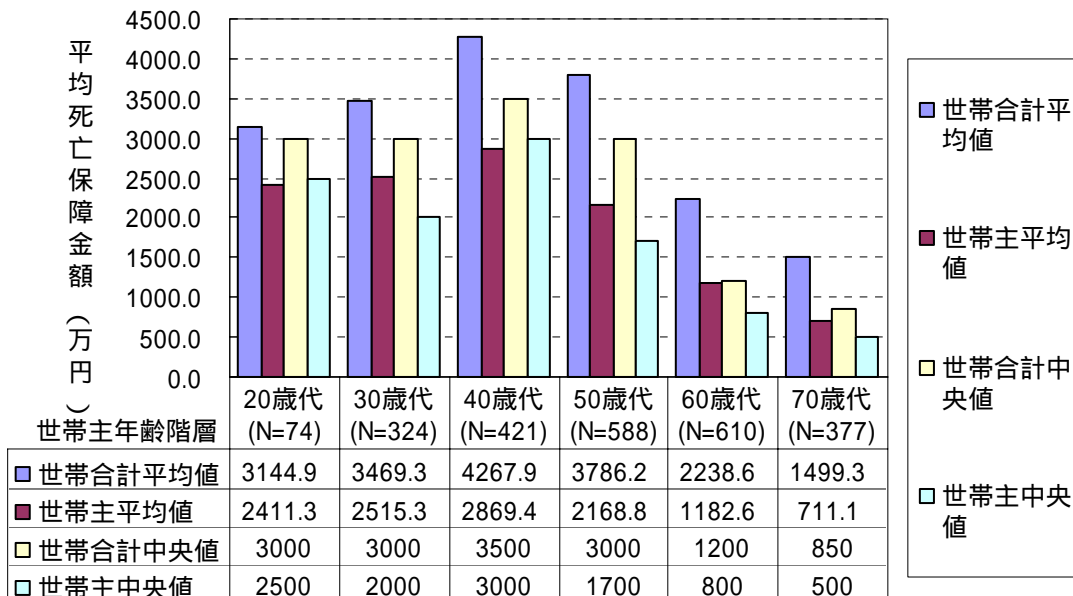
昨年1年間に解約・失効した生命保険についてたずねたところ、60歳代以降で「養老保険」と回答した世帯の割合が約3割であった。また、「学資保険・子ども保険」と回答した世帯は40歳代で最も高かった。



(3) 生命保険の死亡保障金額（掛け捨て型も含む）の平均値及び中央値（図表 20）

平均死亡保障金額を世帯主年齢別にみると、世帯合計及び世帯主において 40 歳代で最も高くなっている。

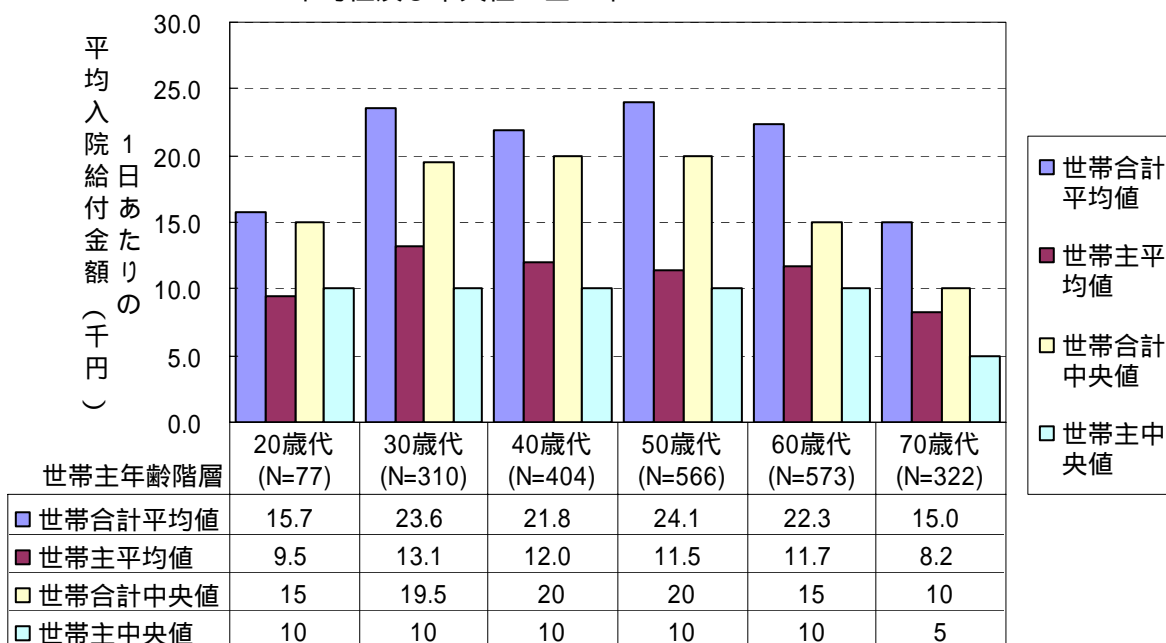
図表 20 生命保険の死亡保障金額の平均値及び中央値 < 全世界帯 >



(4) 医療保険の1日あたりの入院給付金額（病気・ケガの場合）の平均値及び中央値（図表 21）

1日あたりの平均入院給付金額を世帯主年齢別にみると、世帯合計平均値は30歳代から60歳代にかけて概ね2万円前半を推移している。また、世帯主においては約1万円となっている。

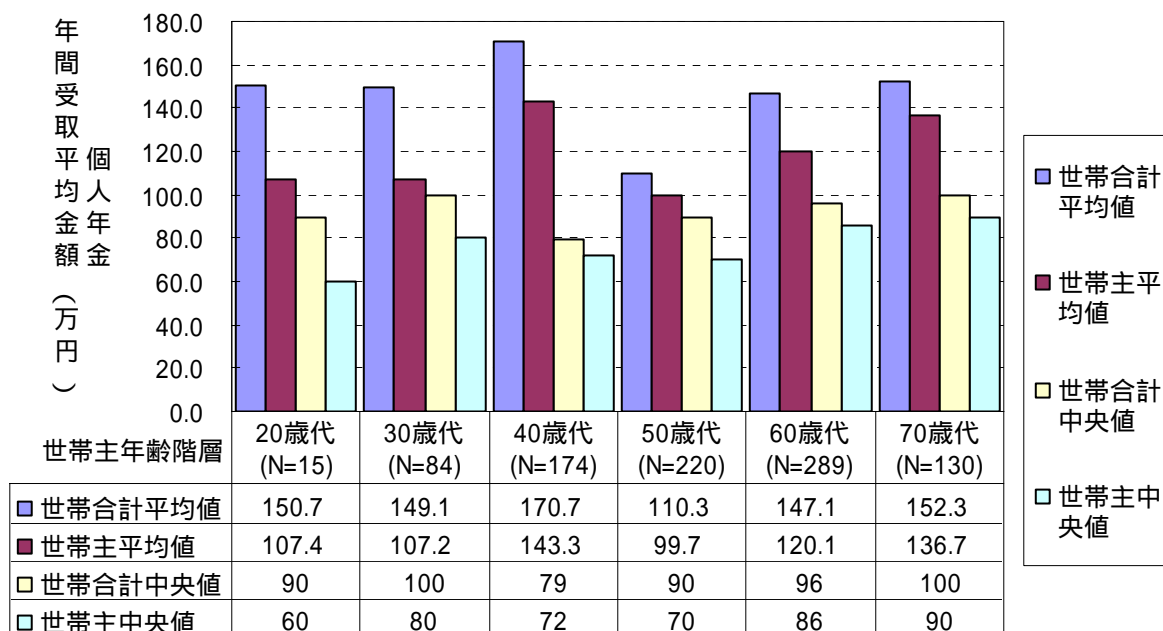
図表 21 医療保険の1日あたりの入院給付金額（病気・ケガの場合）の平均値及び中央値 < 全世界帯 >



(5) 個人年金の年間受取金額（予定を含む）の平均値及び中央値（図表 22）

個人年金の年間受取平均金額（予定を含む）を世帯主年齢別にみると、世帯合計平均値は 40 歳代、50 歳代は除いて、約 150 万円となっている。

図表 22 個人年金の年間受取金額（予定を含む）の平均値及び中央値＜全世帯＞

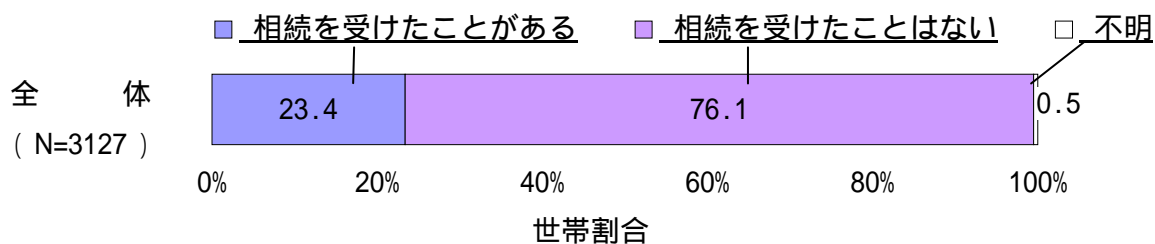


## 7 遺産相続に関する現状と意識

### (1) 遺産相続の状況 (図表 23、24)

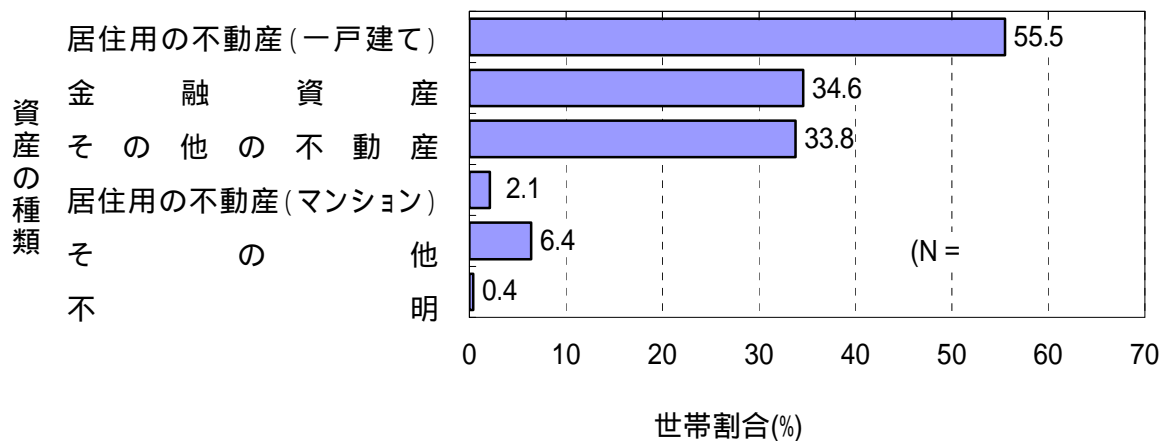
世帯主に対し両親からの遺産相続の有無についてたずねたところ、「相続を受けたことがある」と回答した世帯の割合は2割以上であった。

図表 23 世帯主の遺産相続の有無 < 全世界帯 >



相続を受けたことがある世帯に対し、世帯主が遺産相続を受けた資産の種類をたずねたところ、「居住用不動産（一戸建て）」と回答した世帯の割合が最も高かった。

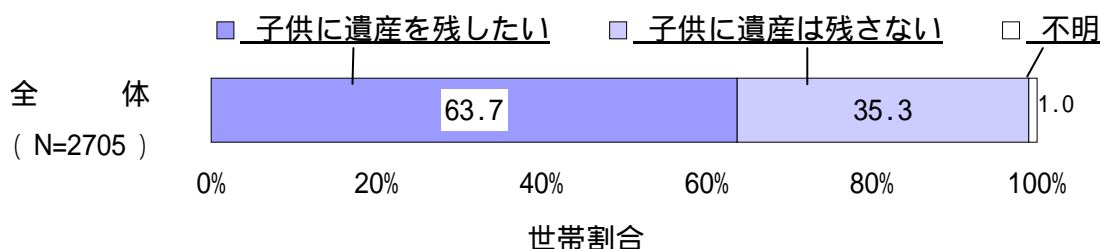
図表 23 世帯主が相続を受けた資産の種類 (複数回答) < 全世界帯 >



(2) 子供への遺産に対する考え方 (図表 24 ~ 26)

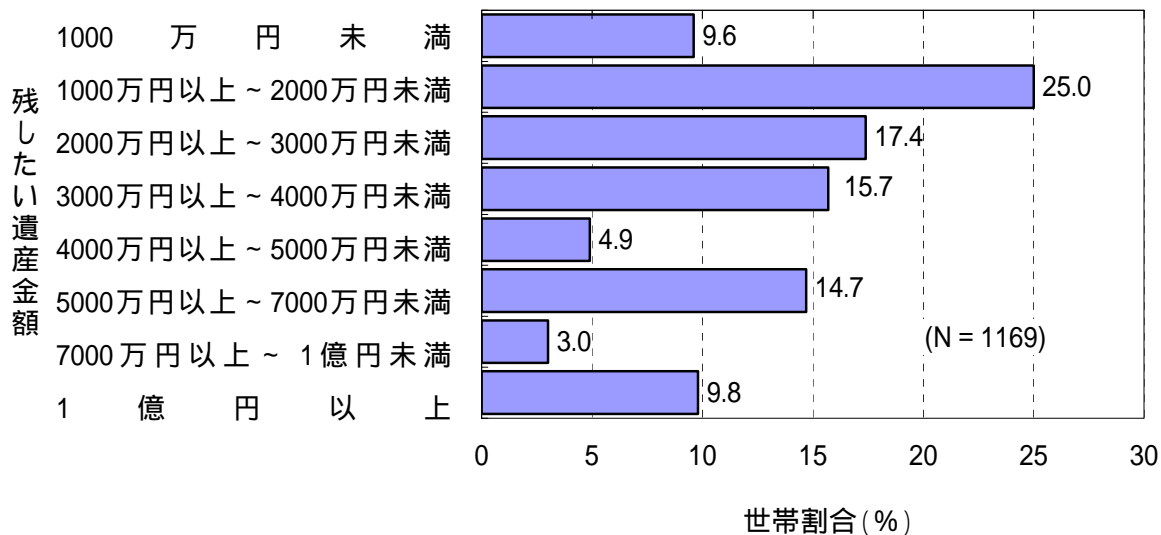
子供に遺産を残す意向をたずねたところ、「子供に遺産を残したい」と回答した世帯が、「子供に遺産を残さない」と回答した世帯を上回り、6割以上を占めている。

図表 24 子供に遺産を残す意向 < 全世帯 >



子供に遺産を残す意向がある世帯に、子供に残したい遺産の金額についてたずねたところ、金額に記入があった世帯では、「1,000万円以上 2000万円未満」と回答した世帯が25.0%となり、他の回答を上回っている。

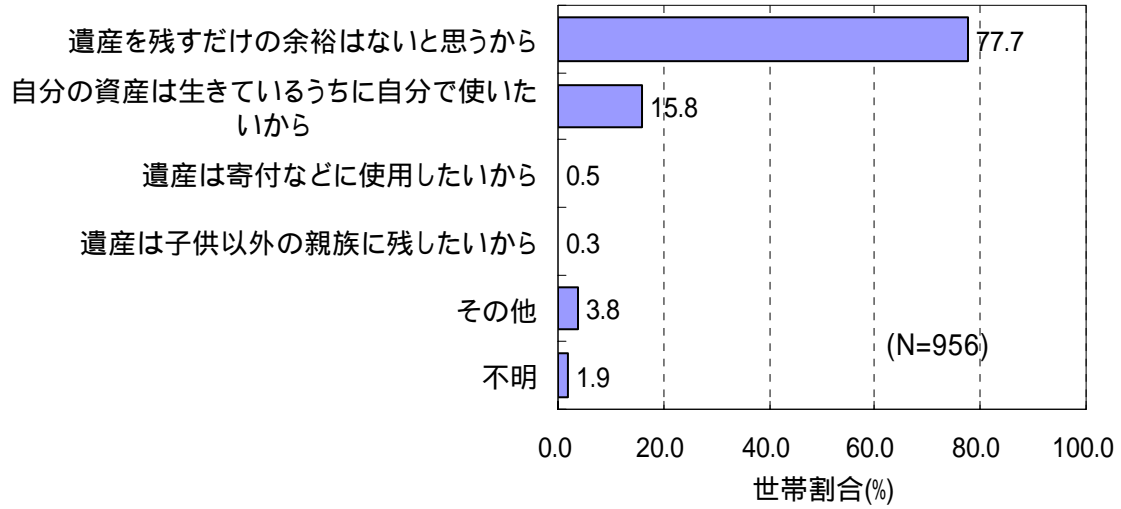
図表 25 子供に残したい遺産金額 < 全世帯 >





また、子供に遺産を残す意向がない世帯に、子供に遺産を残さない理由についてたずねたところ、「遺産を残すだけの余裕はないと思うから」と回答した世帯が他の回答を大きく上回っている。

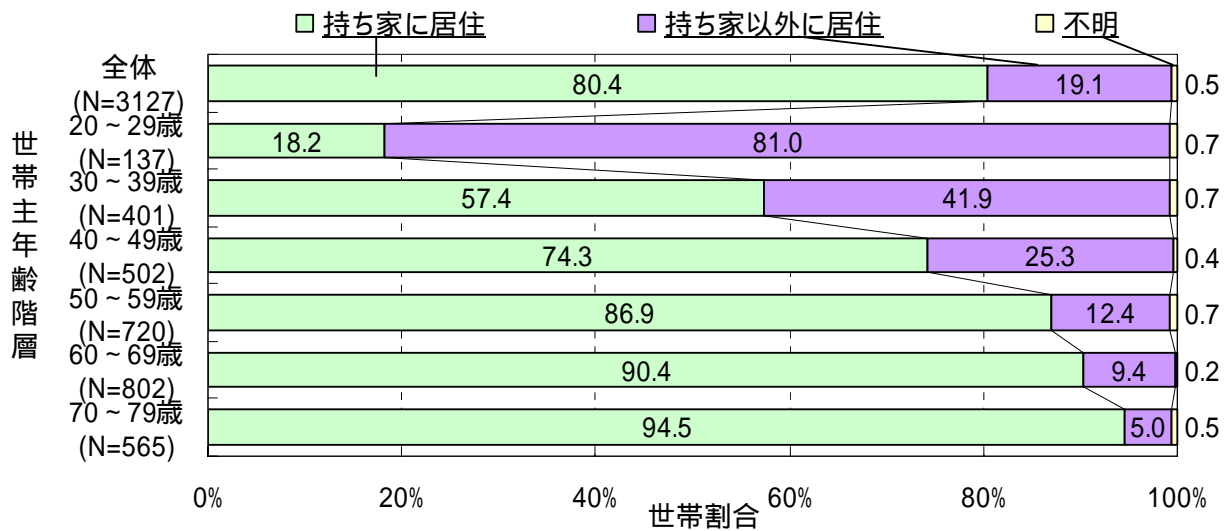
図表 26 子供に遺産を残さない理由 < 全世帯 >



## 8 不動産の保有状況 (図表 27、28)

住居が持ち家（一戸建て、マンション）である世帯の割合は約8割であった。また、年齢が高くなるほど持ち家に居住している割合は高くなり、30歳代から40歳代の世帯でその割合が大きく伸び、60歳代及び70歳代の世帯では9割以上となっている。

図表 27 持ち家の居住状況（世帯主年齢階級別）＜全世界帯＞



持ち家に居住していない世帯に、今後の自宅所得の予定をたずねたところ、「1年以内に予定している」とした世帯、「5年以内に予定している」とした世帯、「予定はあるが時期は不明」とした世帯を合わせると、24.0%となっている。

図表 28 今後の自宅取得の予定＜全世界帯＞

